

第百三十三話 かつては戦友だった！（2）

3 台湾人日本兵

(1) 概要

大東亜戦争が激化し、1944年9月には台湾人にも兵役義務が課せられた。台湾から戦地に赴いた者約21万人、その内約6千人が高砂族だった。戦後、国民党は台湾人元日本兵を強制的に徴用（3万人）し、中国大陸に派遣されて共産軍と戦い、国民党が敗退すると共産軍の捕虜となった。その共産軍は国際法を無視して、捕虜になった台湾兵を朝鮮戦争で韓国に派遣してアメリカ軍と戦わせたと云う。

(2) 支那事変勃発後の軍夫募集と特別志願制度の施行

ア 台湾総督府による軍夫及び通訳の募集

1937(S12)年台湾総督府は、部隊内で雑役に従事する軍夫の募集を開始した。また、中国戦線における翻訳の必要から多くの軍属が募集され福建語、広東語、北京語の通訳に当たった。その人数は軍事機密扱いで明らかではない。

イ 特別志願兵制度及び徴兵制度施行

陸軍特別志願兵制度が施行されると多くの台湾人志願者が殺到した。海軍特別志願兵制度は1943年5月12日に発表され、朝鮮と同時に実施された。

その競争率は、以下の通りである。

1938:6.1倍、1939:20.1倍、1940:27.6倍、1941:27.6倍、1942:48.2倍

1943:50.1倍

その後戦局の悪化により1944年9月から開始された徴兵制度は、1945年に全面实施となっている。

分類	動員数	不明または戦没	不明または戦没率
全体	207183人	30304人	14.6%
軍人	80433人	2146人	2.7%
軍属	126750人	28160人 *30306人とも	22.2% *15%

(3) B C級戦犯裁判 173人有罪、死刑26人

(4) 戦没者遺族等への補償、給与未払問題、軍事郵便貯金の返却等の問題がある。未解決部分もあるが、日本と台湾との国交がなく、調整が進んでいない。

(5) 靖国神社への合祀 26000人が合祀

合祀に関しても種々の見解があり、問題となったこともある。

(6) 李登輝氏は陸軍少尉として従軍、氏の兄は戦死し靖国神社に合祀

31年間インドネシアのモロタイ島で終戦を知らず戦った日本名中村一等兵

4 高砂義勇隊(軍)

台湾原住民により編成され、フィリピン、ニューギニアなど密林地帯の戦場に投入するために創設された。隊員は軍属であり軍人ではないが戦闘に参加し、戦死者の割合が作戦を共にした軍人よりも多かったといわれている。7度にわたって編成され、合計1,800~4,000名の原住民が参加したと考えられている。伝統的な生活を営む高砂族の勇敢で純朴な性質や、耳が良く、夜目が効き、素足で音も無く夜の密林を駆け巡ると言われる程の身体能力の高さが、東南アジアの密林地帯において有用な戦力になると期待された。一部の部族には首狩りの風習が残るなど勇敢であること、強きことは原住民にとって美德であった。



* 日本とこの両国とは難しい問題があるが、かつては同胞であり戦友として共に戦った絆がある筈だ。そこに想いを致すのはどうなのだろう？

(第百三十三話 了)